

第5弾「養成講座を受講すると、何が変わるのか！」

不登校の子どもを家庭を訪問したとき、
「何を話せばいいのだろう」
「どう関われば、心を開いてくれるのだろう」
「学校に行けないことを、どう支援すればいいのだろう」
そんな戸惑いを感じたことはありませんか。

この養成講座で身につけるのは、単なる「不登校に関する知識」ではありません。

目の前の子どもを見る視点が変わり、
家庭への関わり方が変わり、
そして、訪問看護師としてできる支援の幅が広がります。

「子ども」を見る支援から、「家庭全体」を見る支援へ
「学校に行けない子ども」だけを見るのではなく、
「なぜ、この家庭では相談につながれないのだろう」
「保護者は、今どんな思いを抱えているのだろう」
「家族の中で、何が起きているのだろう」
という視点を持てるようになります。

子どもの行動だけを変えようとするのではなく、
子どもを取り巻く家庭全体を理解する。
その視点が、支援の入り口を変えていきます。

「どう訪問すればいい？」から、「信頼関係をつくる訪問」へ
初回訪問で、無理に話を聞き出す必要はありません。
玄関先で終わることもある。
子どもと話せないこともある。
保護者の話を聞くだけの日もある。
大切なのは、すぐに「支援する」ことではなく、
「この人なら、もう一度来てもらってもいい」と思ってもらうこと。

訪問の入り方、距離の取り方、声のかけ方、家族との関係づくり。
講座では、現場で迷いやすい場面を具体的に学び、
「訪問する」から「伴走する」へと支援の質を高めていきます。
「何をしたらいいかわからない」から、「次の一步を考えられる」へ、

不登校支援には、決まった正解がありません。
だからこそ、
「今、この子と家庭に必要なのは何か」

「次にできる小さな一歩は何か」

「学校や他の支援機関と、どうつながればいいのか」

を考える力が必要になります。

一つの正解を覚えるのではなく、

目の前のケースに合わせて支援を組み立てる力を身につけます。

「一人で抱える」から、「地域で支える」へ

不登校支援は、一人の訪問看護師だけで完結するものではありません。

学校、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、医療、福祉、地域の支援機関。

それぞれの役割を理解し、必要なときに適切につなぐ。

そして何より、

「同じ課題に向き合っている訪問看護師がいる」

ということを知ること、この講座の大きな意味です。

講座を通して、知識だけではなく、

同じ思いを持つ仲間とつながり、

地域で支援を広げていくためのネットワークをつくっていきます。

受講後、あなたの「見え方」が変わります。

「学校に行けない子」



「その背景にある家庭や環境まで見える」

「訪問しても、何をすればいいかわからない」



「信頼関係をつくるための一歩を考えられる」

「保護者への関わり方が難しい」



「保護者の思いを理解し、家族と一緒に考えられる」

「一人でケースを抱えてしまう」



「多職種とつながり、チームで支えられる」

「不登校支援は難しい」



「自分にもできる支援がある」と思える。

この変化こそが、この養成講座で目指しているものです。

不登校支援に必要なのは、

「子どもを学校に戻す技術」だけではありません。

その子と家族の「今」を理解し、

安心できる関係をつくり、

一緒に次の一步を探していく力です。

もし、あなたが今、

「もっと家族に寄り添える訪問看護師になりたい」

「不登校の子どもたちに、自分にもできる支援を増やしたい」

「訪問看護の可能性を、もっと広げたい」

そう感じているなら、

この6回の学びが、

あなたの支援を変えるきっかけになるかもしれません。

「知っている訪問看護師」から、

「支援できる訪問看護師」へ。

一緒に、不登校支援の新しい一步を踏み出しませんか。

